

夏期集中講座 キャリア開発 2022スケジュール

	9月12日		13日	14日	15日		16日
	1日目		2日目	3日目	4日目		5日目
キャリアデザイン		建築の実務					
			設計の日	施工の日	まちづくりの日		エンジニアリングの日
1 時限 13:40~ 15:20	キャリア デザイン	1 時限 13:40~ 15:00	アトリエ事務所 マイオ建築研究所 麻殖生 龍哉(2000)	サブコン 東洋熱工業 塚本 和之(2003)	行政 横浜市 馬立 歳久(1992)	1 時限 13:40~ 15:00	設備設計 NTTファシリティーズ 木嶋 満(2001)
2 時限 15:30~ 17:10	キャリア デザイン	2 時限 15:10~ 16:30	ゼネコン設計部 竹中工務店 秋山 裕子(2001)	ゼネコン施工部門 清水建設 高橋 剛(1997)	ハウスメーカー 積水ハウス 藤田 弘樹(1986)	2 時限 15:10~ 16:30	構造設計 佐藤総合計画 高橋 祐三(2008)
3 時限 17:20~ 19:00	キャリア デザイン	3 時限 16:40~ 18:00	組織設計事務所 安井建築 設計事務所 村松 弘治(1982)	インテリア 三越伊勢丹プロティ・ デザイン 藤田 麻美(2016)	ディベロッパー 森ビル 新井 章邦(1988)	3 時限 16:40~ 17:20	討論会(司会) 松田平田設計 小林 秀憲(1982)
		4 時限 18:10~ 19:20	討論会(司会) 浅井アーキテクツ 浅井 百合(2007)	討論会(司会) 大林組 中込 昭彦(1991)	討論会(司会) 東急 打矢 潤市(2000)	4 時限 17:30~ 19:00	懇談会 (授業外/如学会行事・ 学生任意参加)

※討論会は各講師による各分野のキャリアについて討論です。(授業内)

9月13日1時限	勤務先	マイオ建築研究所		
	氏名	麻殖生 龍哉	卒年(西歴)	2000年

「アトリエで生きるということ」をテーマに講義を行いました。「学生時代」「手塚建築研究所に入って」「独立して」と時代を区切って各々の時代でどんなことをし、どんなことを考えながら過ごしてきたかを話しました。「学生時代」では私の初志に対して何をすることが大切かを考え、授業や課題への取り組みや課外活動、遊びについて詳しく話をしました。「手塚事務所に入って」では私が手塚事務所に入った経緯、代表的な2つの担当物件「あさひ幼稚園」「渋谷フクラス」においてどのような仕事をしてきたかを当時の具体的なスケッチや模型写真などを用いて説明し、アトリエってどんなところなのかを感じてもらいました。

「独立して」では独立した経緯を説明し、独立後環境としてどのような変化があったか、そしてどのような活動をしているかを話しました。「番外編」では忙しいと思われるアトリエという環境の中でも楽しい時間は沢山あるし、それが自分にとっては人生のバランスをとる上でとても重要であることを話しました。全体を通して学生の皆様の「アトリエ」へのネガティブなイメージが少しでもポジティブに変わるよう「アトリエで生きるということ」がいかに幸せでやりがいのある選択であるかということをお伝えいたしました。

9月13日2時限	勤務先	株式会社竹中工務店		
	氏名	秋山 裕子	卒年（西歴）	2001年

対面授業でなかったので学生の反応も気になりつつ、学生時代に岩崎研究室で学んだこと、社会人1年目の寮生活+研修について楽しかったエピソードの話をした。その後設計部に配属され働き盛りの期間、大変だった時短勤務と子育ての両立、2度目の産休育休後の仕事について、実作をもとに、どのように仕事と向き合ったのかを具体的に講義を行った。最初の7年間は、実施設計以外の様々な仕事にも携わり社内の人脈を形成し、上司に将来の自分のビジョンを伝え、自分の成長を意識しながら仕事に取り組んだこと。子育て中、仕事量や仕事の進め方に悩んだ時期には、社内の立場の違う人に助けってもらったこと。2度目の育休は1年半取得し、建築から離れ心身ともにリセットし、その後は、広い視野で自分らしく「素材」や「木構造」をテーマに、建築主と一緒に悩み考え、建物に「愛着」をもってもらえるよう、設計のアプローチができたことを話した。ゼネコンでしかできない木構造技術開発に携わること等で、チームワークの仕事の強みを改めて実感していることも伝えた。ゼネコンは硬いイメージがあるとよく言われるので、設計部の組織体系も具体的に伝え、チームで仕事をする楽しさや、自分次第で自由に仕事ができることも伝え、将来の選択肢の幅を広げてもらいたいと思った。また、私の経験談から、将来、仕事も子育ても両立したいと考えている学生が、萎縮せず一步を踏み出すきっかけになってもらえたらと思う。

9月13日3時限	勤務先	株式会社安井建築設計事務所		
	氏名	村松 弘治	卒年(西歴)	1982年

アトリエ、組織設計で過ごした経験や現在の実務を通して、建築設計に関する実務、キャリア形成について、学生が取り組むべきこと、意識すべきことについて講義。骨子は、①設計の実務を考える上で、自らが身を置く仕事のポジションやフィールドを確認することが、職種や会社の選択、個の目標設定につながる。②社会問題＝クライアントニーズと密接に関わる。ゆえに従来の設計フェーズを超越した事業そのものにフォーカスした課題解決のための独自対応が求められる。③設計ファームには大小組織がある。大事なことは特徴を理解し、いずれの組織においてもアグレッシブに行動すること。後の設計活動、キャリア形成に生きてくる。④組織設計の運営ポイントは、品質、コスト、リスク、社会問題、健康経営、PDCA。積極的にデジタルツール〈BIM〉を用い、エビデンスの構築とデジタルツインで先行可視化を推進し、事業ニーズに込えている。⑤提案力は、多様性、基礎力、想像力を鍛えることが必須である。様々な知識(政治、経済、哲学、心理、文学など)に注目すべき。思考の幅を広げることは魅力的建築提案には欠かせない。⑥注目すべきトレンドは環境とDX。快適な空間やまちづくりのために既成概念を超越した思考が必須。⑦建築には多くの使命がある。それらに応える設計者になるためには自立と自律の意識と行動が必要。建築は生涯学習。ゆえに継続可能な環境選択が個のキャリア形成につながる。

9月14日1時限	勤務先	東洋熱工業株式会社		
	氏名	塚本 和之	卒年（西歴）	2003年

1. プロフィール>2003年3月に武蔵工業大学工学部機械工学科を卒業し、東洋熱工業株式会社へ入社。入社後は東京本店工事部、海外事業部を経験し、現在は東京本店サービス部にて保守・修繕工事の現場に従事。
2. 学生時代を振り返る>モノづくりを生業にしたいという思いから工学部機械工学科へ進学。機械材料系研究室に所属。学業以外では居酒屋でのアルバイトに没頭。
3. 就活を振り返る>研究室の講師から設備業界について紹介されたことで設備の重要性・面白さを知り、設備業界への就職を決めた。また就職活動を通して、自分とは何かと考えるきっかけになり自己の個性を理解し、特徴・強みを知ることが出来た。
4. 東熱の紹介>動画での企業概要や、東熱の特徴である技術力の高さについて説明。
5. 東熱でのキャリア>ライフキャリアレインボーを交えながら、東熱に入社してから現在までの仕事や私生活について説明を行った。海外勤務時代に感じた日本との違い等について説明。
6. 建築設備（サブコン）の魅力>建築設備は空気・水・電気などを使用する為に機械、配管などで構成されるシステムである。空調衛生設備工事など特定職種だけを請け負う建設業者の事をサブコンと言う。サブコンのやりがいとしては、若い段階から責任ある立場を任せられること、省資源化、省エネルギー化等を通じて、社会に貢献できる仕事、人々の生活を陰で支える緑の下の力持ちであるという事があげられる。

9月14日2時限	勤務先	清水建設株式会社		
	氏名	高橋 剛	卒年（西歴）	1997年

「ゼネコン施工部門」～施工管理の仕事の魅力～

◆①自己紹介

◆②施工管理の仕事とは ・工事計画の立案、資材発注と専門工事業者(作業員)の手配・QCDSの5つの管理項目を守ることが重要

◆③施工管理職のキャリアパスと私の経歴 ・施工管理職のキャリアパスを 4段階(1年目～、5年目～、10年目～(主任)、15年目～(工事長))で説明 ・施工管理の仕事はその段階によって、経験・技量が向上し役割や業務内容も変化

◆④現在の現場紹介と将来の取組み ・虎ノ門麻布台再開発A街区のプロジェクト紹介(動画) ・完成すると高さ325mの建物となり日本一の高さを誇る ・「建物づくり」というより「街をつくる」という超大規模プロジェクトでさまざまな新しい技術の開発やICT活用への取組みにチャレンジ ・次世代に向けた取組みとして「デジタルゼネコン」を目指す「ものづくりをデジタルで」ロボット開発に力を注いでいる

◆⑤現場所長の仕事と施工管理の魅力 ・現場所長の仕事を所長の立場で関係する「施主」「設計者」「施工会社」「諸官庁」「近隣」「現場所員」「協力業者(作業員)」から求められる内容を説明 ・所長の仕事(施工管理の仕事)とは、その関係者各々に求められる要求に応え満足させられるようゴール(工事完成)へのシナリオを自ら考え、関係者を上手くマネジメントし、プロジェクトをまとめあげること ・その中で、エンジニア(専門的な知識とスキル)とマネージャー(人、もの、お金の管理)の両方のバランスが重要・所長としてのやりがい ～施工管理の魅力～

◆⑥学生の皆さんに伝えたいこと ・学生時代に学業以外で部活・サークル・アルバイト・課外活動・ボランティア・海外旅行などいろいろな経験を通じて、多くの人と出会い共に活動することで、相手の良いところを吸収し、自分を良く知ることが大事。自分の特性に気付けるか

◆⑦質疑応答

9月14日3時限	勤務先	株式会社三越伊勢丹プロパティ・デザイン		
	氏名	藤田 麻美	卒年（西歴）	2016年

【業績紹介・実績事例】ホテルの新築案件を担当する事が多く、建築・内装・FF&E工事を経た後、サイン工事やホテル運営側のOSE部門の納品が続き、計画～開業までに幅広い業界の方が関わっていると実感しています。

【経歴紹介・質疑回答】入社して製作管理部・積算部を経験した後、3年目より希望の設計部に配属になりました。当初は業務内容を自分なりに把握し次案件で活かそうというタイミングで次の部に異動と中途半端になっているように感じていましたが、今ではスケジュール・コストの感覚を身に付けた上で設計部に配属され設計施工案件に携われているのは強みであると感じています。

以上より、就活の際には専門職・総合職採用、ジョブローテーションの有無等の採用条件や建築・内装業界に囚われず、広い視野を持ち関連業界・企業を調べてインターンや説明会に参加し企業分析を行なってほしいと思います。

就活の振り返りや他講師の方のお話を伺い、社内外問わず、藤田に仕事を任せて良かったと思ってもらえるように日々精進したいと改めて思いました。このような機会を頂戴し、有難うございました。説明が分かりづらい部分も多々あったと思いますが、就活・キャリアデザイン作成の参考になれば嬉しいです。

9月15日1時限	勤務先	横浜市役所		
	氏名	馬立 歳久	卒年（西歴）	1992年

今回は、経歴をタイトルに表現し経験してきたことを素直に伝えたいと思いました。都市大で広瀬鎌二さんに学び東京芸大に進学した経歴が人生の助けになったこと、大学院が合わなかった失敗談、新居千秋さんの「大学院は先生が普通の人だと知る機会、就職はデザインの相性でなく仕事と人が集まっているかで選ぶ」、村上徹さんの「生き残るために経営が重要」、妹島和世さんの「伸びるのは素直な人」など、出会ったひとから頂いた言葉を伝えたいと思いました。

また、公務員を知っていただくために、建築職の4分野（まちづくり、公共建築物の整備・保全、建築・開発の指導、住宅政策）と、私の職場経験をご紹介します。私は多忙な部署と全く残業がない部署を概ね4年程度で異動し様々な経験を積みました。業務の多くは個人の裁量に任せられ、やる気のある人がちゃんと評価される点が公務員の魅力です。

最後に、横浜市職員ならではの貴重な経験や会いたい人と出会い、仕事が認められ市民から頂いた感謝状など、思い出を披露しました。

講義のあとに、皆さんからいただいた感想からは素直な気持ちと熱意を感じました。長時間でしたがお疲れ様でした。他の先生からも多くの刺激をいただきました。関係者のみなさま、良い機会をいただきありがとうございますございました。

9月15日2時限	勤務先	積水ハウス株式会社		
	氏名	藤田 弘樹	卒年（西歴）	1986年

「わが家」を世界一幸せな場所にするシゴト

前半はこれまで会社の若手育成のためにやってきたことの紹介、後半は学生の皆さんが会社選びをする上でのポイントを人事目線で紹介。

“若手の育成”では設計部時代にメンバーの成長のために話していたこととして、

- ① 企業内における年代ごとの役割とそれに向けて必要なこと。
- ② 積水ハウスの若手研修プログラムの紹介。
- ③ 知識は「広げる」と「深める」ことが大事、これまでやってきた勉強会など紹介。

後半の“会社の見方”では会社が与えてくれるEVP（従業員への価値の提供）について積水ハウスを事例に紹介。会社安定（将来性）と働きがい、働き方、待遇などを見る必要があることを説明、会社安定では決算数字のほか少子化の中での対処策の紹介、技術開発力、人材育成力など紹介した。

質問では日本の新築市場に対する悲観的な意見に関するものが多かった。まだまだ日本のポテンシャルは大きい、グローバル化の中でしっかりと競争力を身につけ、自信をもって頑張してほしいことを伝えた。

9月15日3時限	勤務先	森ビル株式会社		
	氏名	新井 章邦	卒年（西歴）	1988年

森ビルの都市づくりを通して、建築学科の学生にとって、馴染みのないディベロッパーの役割を理解してもらい、進路として可能性が充分ある事を理解して貰うことを目指した。

まずは、不動産業界におけるディベロッパーの存在・役割などを説明した。その後森ビルでは土地の取得から管理運営まで不動産事業の川上から川下まで一気通貫して関わる業務の流れを説明した。理系、文系の社員が共に働き、かつ多くの協働事業者とともに建築、インフラなどを街・都市レベルで創り上げていく醍醐味をイメージして貰った。次に、森ビルの歴代プロジェクトを紹介し、建築ニーズが時代とともに変化し、不動産事業者としていかに対応してきたかを伝えた。具体的には単体ビルの開発から面的な開発へ、そして高次複合施設の再開発事業へと展開・拡大してきた流れを説明した。また、エリア開発を展開する上で、ランドデザインを描くことの大切さを、自身がその実践に携わった経験を基に伝えた。その青写真に描いた街を具現化すべく、現在進めている国内最大級のプロジェクトに加えて、海外プロジェクトの進捗状況を紹介し、そのダイナミズムを感じて貰った。

最後に、自身のキャリアを振り返り、建築・設計分野に様々な形で関わってきた事を伝え、ディベロッパーが、ハードからソフトまで多様な視点でプロジェクトに関わる事が出来る魅力的な職種であり、とてもやりがいのある仕事である事を伝えた。

9月16日1時限	勤務先	株式会社NTTファシリティーズ		
	氏名	木嶋 満	卒年(西歴)	2001年

建築設備に従事して約20年、設備エンジニアの実務領域の幅広さ及び存在価値を認識することが多い。その背景として1点目は「社会的な環境対策ニーズの高まり」がある。省エネルギーや地球温暖化対策、これらは各企業や自治体において優先取組課題の一つと位置づけられており、設備エンジニアからの「数値による説得力ある改善提案」に注目が集まる場面が増えている。2点目は「室環境において空調整備は必要不可欠」であること。既存建物での設備老朽による「暑い寒い」は室環境への影響が非常に大きいため是が非でも改善して欲しいという事案が非常に多い。加えて空調設備は台数も多く、かつ定期整備が必要であることから常に設備エンジニアが必要な状況である。

また、設備業界は社会の変化とも密接な関係にある。分煙化対策(改正法令への適合対応)、サテライトオフィス構築に伴う空調リニューアル、新型コロナに対応する換気量適正化、AI技術による環境適正化など、新生活様式を考える上でも設備エンジニアは重要な役割を担っている。以上のような「様々な領域で常に期待を感じられること」が設備業務のやりがいとなっている。今後は更なる多様化社会となるであろうが、その時々では間違いなく設備エンジニアリングは社会を支える存在となっていると思われる。

9月16日2時限	勤務先	株式会社佐藤総合計画		
	氏名	高橋 祐三	卒年（西歴）	2008年

東京都市大学学生の皆様へ 本講義では、まず、私がなぜ建築をやることになったのか、なぜ構造の分野に進んだのか、なぜアトリエ系の構造事務所に入社し組織事務所に転職したのか、当時私が考えていたことを織り交ぜながら話を進めていきました。

構造設計の内容では、私が学生時代に当初思っていた構造設計はただ骨組みを計算する仕事と、あまり面白くないイメージを少しでも変えられるよう、構造設計でもデザインすることは可能であり、構造こそが建築をデザインするんだ！という意志を込め、皆さんにお話ししました。2つ挙げた事例では、皆さんが考えればイメージできる構造の原理が元になった架構デザインです。1つ目の事例は逆三角形の自立したフレームを安定させるにはどのようにすれば安定するのか、2つ目の事例は今まさに皆さんが構造力学で学んでいる3ヒンジラーメン構造を少しだけ発展させた架構です。もう既に皆さんも構造デザインはできます。自分の設計課題でも構造的な考えを取り込んだ作品を考えてみてはどうでしょうか。最後に、講義でもお話したように、学生時代に出会った友人や先輩。彼らの存在が、私が今、この仕事をやる大きなきっかけとなっています。コロナ化で、人々の交流が、私の頃に比べて難しい状況ではありますが、みなさんにも是非、色々な方との交流をしてほしいと強く思います。慣れない説明でわかりにくい部分も多々あったと思いますが最後までご清聴ありがとうございました。また貴重な機会をいただいた関係者の方々に御礼申し上げます。